

ダリア切り花の品質保持技術の改良

技術の特徴

産地でサイトカニン、6-ベンジルアミノプリン(BA)製剤を散布したダリア切り花を、糖質＋抗菌剤の溶液で小売店まで輸送し、小売店で再度BAを散布し、かつ、生け水に糖質＋抗菌剤溶液を用いることによりダリア切り花の日持ちが向上する。

研究の内容

- ・ダリア切り花は豪華な花形、鮮明な花色で人気がある。しかし、日持ちが短いことが問題となっている。
- ・ダリア花部分にサイトカニン、6-ベンジルアミノプリン(BA)を散布することにより日持ちが延長する(Shimizu-Yumoto and Ichimura, 2013)が、生産現場から効果が不安定であるとの指摘がある。
- ・そこで、2産地10品種のダリア切り花を用いて小売店でのBA製剤再散布が日持ちに及ぼす影響を調査した(図1)。
- ・その結果、BA製剤を再散布し、かつ、生け水に糖質＋抗菌剤溶液を用いることにより多くの品種で日持ちがさらに延長することが明らかになった(図2、3)。

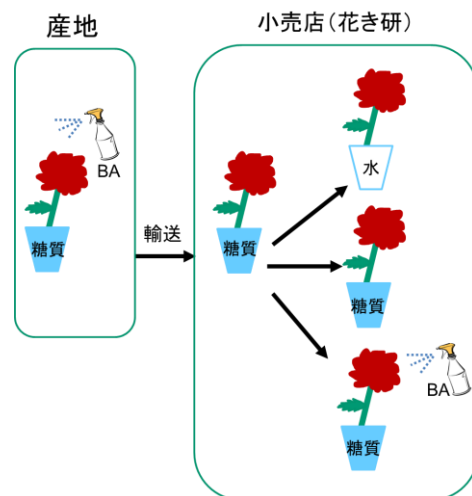


図1 ダリア切り花のBA再散布試験概要
糖質には抗菌剤が含まれる
市販のBA製剤を規定倍率で希釈して用いた

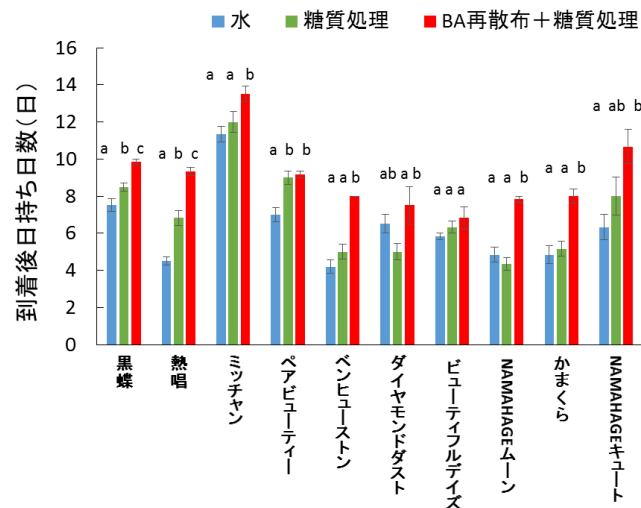


図2 ダリア切り花10品種におけるBA再散布が日持ちに及ぼす影響
品種内で異なるアルファベットはFisherのPLSDで5%水準で有意差あり
‘黒蝶’から‘ペアビューティ’まではA産地(2014年10月)・‘ベンヒューストン’から‘NAMAHAGEキュート’まではB産地(2015年6月)。n=3~6



図3 ダリア切り花‘ミッチャン’到着後10日目の様子
左: 水、右: BA再散布＋糖質処理

今後の展開

産地だけではなく、小売店での品質保持剤処理も、ダリア切り花の日持ち向上に重要であることを、試験結果の公表等を通してアピールしていく予定である。

参 考

Shimizu-Yumoto, Hiroko and Kazuo Ichimura. 2013. Postharvest characteristics of cut dahlia flowers with a focus on ethylene and effectiveness of 6-benzylaminopurine treatments in extending vase life. Postharvest Biology and Technology vol. 86 p479-486.
本研究は農食事業(課題番号:25075C)により行った